

# 長畝ふるさと通信

【2012年1月号】

新年あけましておめでとうございます。

毎度「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」をご愛顧いただき、心から御礼申し上げます。本年も変わらぬご愛顧、宜しくお願いいたします。

東日本大震災から早1年が経とうとしています。福島原発事故による放射能汚染は私たちの食の安心・安全基準を大きく変えるものでした。従来の安全に加えて、さらに放射能という全く目に見えない怪物とも向き合わなくてはなりません。世界最大級の柏崎・刈羽原発を抱える新潟県・佐渡にとって福島原発事故は「対岸の火事」では決してありません。根本的に日本の暮らしの有り様が問われるものと思っています。



## ■ コンバインやトラクターの格納整備に追われています

田んぼは雪に覆われています。この時期、コンバインやトラクター、田植機などの大型機械の整備作業を行っています。冷たいみぞれ交じりの中、完全防備でコンバインなどに付いた泥を綺麗に落とし、不良部分を交換したり、新しい部品に付け替えたりと結構忙しいのです。寒さで手がかじかんで思うように動かないこともしばしば。春が待ち遠しい……



## ■ 温湯消毒作業開始



1月20日から種もみの温湯消毒が始まりました。今年は約190トン、6000ha分の田んぼの種もみを消毒します。JA佐渡から作業受託して今年で4年目。約40日間、休まず作業します。

<主な作業内容>

①種もみを計量して4kg(または2kg)にネット詰めします ②60度のお湯に約10分つけ込み、その後5分冷水につけて冷やします。水槽のお湯や冷水は一定の温度が保たれ、その中をベルトコンベアにつるされた種もみがゆっくりと流れていきます。③冷却された種もみを脱水機にかけます ④ラックに並べられた種もみはそのまま乾燥室に入れられ、一晩乾燥します ⑤翌朝には水分15~17%程度に乾燥され、さらに常温で1日乾燥熱を取ります ⑥品種別に袋詰めをしてJAの各支店に配送されます。



冬の晴れ間に田んぼを散歩すると、とても気持ちがいいんです。辺りは真っ白、誰もいません。ぴーンと張り詰めた冷たい空気が何とも言えません。雪の下ではもうたくさんの生きものたちが「春よ来い」とばかりに活動をはじめています。